

令和7年度

— テーマ・水について考える —

水の週間記念作文集

第47回 「全日本中学生水の作文コンクール」三重県推薦分

目次

（掲載順は、各賞低学年から、学校名・氏名とも五十音順）

第47回全日本中学生水の作文コンクール	入選		
水の歴史に思いを馳せる	高田中学校	二年	渡辺心晴 1
第47回全日本中学生水の作文コンクール	入選		
未来の海を守るために	高田中学校	二年	水谷真菜香 3
第47回全日本中学生水の作文コンクール	佳作		
「水をお借りします。」	高田中学校	一年	浅沼香菜子 5
美しい君ヶ野ダムを守るために	高田中学校	一年	鈴木葵唯 7
「二〇五〇年の海」	高田中学校	二年	土井柚香 9
第47回「全日本中学生水の作文コンクール」について			11

入選・流域賞

水の歴史に思いを馳せる

高^た田^か中^だ学^{ちゅう}校^{がっこう}

二年

渡^{わた}辺^な心^べ晴^{こはる}

今年もこの季節がやってきた。去年の夏、私は地元
の地域を守る「蓮ダム」を見学し、ダム湖の巡視や水
質調査・点検を行いながら職員の方とお話しをする貴
重な機会を得た。蓮ダムを訪れる前に、祖父より聞い
た話が印象深かった。曾祖父は元々、三重県飯南郡飯
高町青田という所に住んでおり、林業で生計を立てて
暮らしていた。しかし昭和三十四年にこの地域を襲つ
た伊勢湾台風の影響で、この地域の治水計画が始ま
り、蓮ダム建設を機に、ダム下流の飯高町森の犬飼と
いう地域に移転した。最終的に青田地区・蓮地区・猿
山地区の192戸が移転をした。計画では、曾祖父の
生家は家の軒に水がくる位置にあり、裏にある先祖
代々の墓も水に沈むということだったそうだ。はじめ
地域住民はダム建設に反対していたが、同じ三重県南
部地域の水資源である宮川水系には既に宮川ダムが

あり、ダムの洪水調節により伊勢湾台風の洪水被害を
最小限に食い止めていた。そのため甚大な被害を受け
た櫛田川水系にもダムによる治水計画は必須だった。
こうして曾祖父の生家は蓮ダムの底に沈んだわけだ
が、その時の気持ちを祖父に聞いてみた。「おやじの生
家がダムの底に沈んだのはさみしいが、地域の安全の
ためには仕方がなかったんやろうな。今でも墓参りに
いくと思い出す。」と話してくれた。現在お墓はダム湖
の脇の土地にお骨と墓石を移したそうだ。

同時に私も思い出したことがある。小学校五年生の
時に、同じ飯高町にある現在は廃校になった波瀬小学
校にデイキャンプへ訪れた。目の前を流れる波瀬川で
アマゴの掴み取りをした。水中ゴーグルでのぞいた川
の中はとても透き通っていて、遠くまで見えたことを
今も鮮明に覚えている。あの時の透き通った水も、今

目の前のコップに入っている水も、蓮ダムで育まれていると気づいた。何だか不思議な気持ちだ。蓮ダムの底に沈んだ村の人々の生活。それは十三歳の私にとつてはとても遠い過去の記録だと感じる。しかし蓮ダムのおかげで大切な水や安全な暮らしが今ここにある。そう考えたら蓮ダムを通して過去と今が繋がっているように感じた。見たこともない曾祖父の生家が懐かしく想え、タイムスリップしてお礼を言いたい気持ちになった。

去年蓮ダムの職員の方とお話する機会をいただいた時、「なぜダムを守る仕事を選んだのですか？」と質問した。職員の方はダムには水害から地域を守る・水力発電・水田などへの流入機能の維持・水道用水の供給という大切な役割があることを教えてくれた。そのうえで、「自分がこの南勢志摩地域の水の供給と安全を守っているという大きな責任にやりがいをもって仕事に臨んでいます」と教えてくれた。今私の目の前にあるコップの水に、ダム湖職員の方の想いが注がれた気がした。

過去・現在そして未来へと、いつの時も私たちにと

って身近にあり大切な水。ふとこの水の歴史に思いを馳せる日を、これから私は「水の歴史に思いを馳せる記念日」に制定し、あらためて水の恵みに感謝しようと思う。



入選

未来の海を守るために

高田 中学 校

二年

水谷 真菜香

私は家族と一緒に大阪・関西万博を訪れた。万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、私たちは、未来を想像する多様な体験ができた。その中で、私が最も興味を持ったのは、海に関する展示だった。

「Blue Ocean Dome」というパビリオンでは、海洋保全がテーマとされていた。現在の地球の海は、魚礁の減少や海水温の上昇、気候変動による大規模な災害、そしてプラスチック汚染など、さまざまな問題に直面していることが分かった。こうした問題が起こっていることは以前から少しは知っていた。ウミガメがビニール袋をクラゲと間違えて飲み込んでしまうというニュースを見たときは、とても悲しかった。パビリオン内では、大きなスクリーンに、地球の海の豊かな生態系や色とりどりの魚たちが映し出されていて、本当に美しかった。しかしその一方で、海の中に増え

続けるプラスチックごみの様子も鮮明に映され、私の想像をはるかに超える深刻な現状を目の当たりにした。

世界中の海には毎年八百万トン以上のプラスチックごみが流れ込んでいるそうだ。これは、東京ドーム約千個分の重さに相当するという。このままの状態が続けば、二千五十年には海のプラスチックごみの量が、魚の量を上回るという試算もある。きれいな海が二十五年後にはプラスチックだらけになり、そんな海で泳ぐことになるなんて、とても悲しく悔しい気持ちになった。

なぜプラスチックごみが年々増えているのか、自分で調べてみた。原因としては、人口増加による商品の消費拡大、使い捨て文化の広がり、リサイクルの課題などがあつた。リサイクルには、分別の難しさ、技術

の限界、インフラの不足、そして消費者の意識の低さなどの多くの問題があることも分かった。消費者の意識を高めるためには、正しい分別知識や情報を増やし、関心を高め、習慣化することが解決につながるのではないかと考えた。

万博では環境問題への取り組みも重要なテーマの一つとなっており、ごみの分別も細かく行われていた。再生可能なペットボトル、キャップ、かん・びん、紙類、プラスチック、そして再生できない飲み残し、燃やすごみ、燃やさないごみに分けられていた。ごみを捨てる時には少し手間に感じたが、一か所にすべての分別用ごみ箱がそろっていたため、迷わず分別することができた。またリサイクルの過程が見られるコードの設置もあり、まさに自分が考えた解決策につながる取り組みが実践されていた。

オーストラリアパビリオンでは、前方、側面、天井が複数のスクリーンで囲まれ、まるで海の中にいるような感覚を味わえた。ウミガメやエイ、クジラなどが、きれいな海の中を元氣いっぱい泳いでいた。色鮮やかなサンゴ礁などの自然も美しく、感動して胸がいっ

ぱいになった。私はそこで、「この美しい海を守らなければならぬ」と強く思った。

私もこれから身近なことから意識して取り組んでいこうと思う。たとえば、私の住む市ではペットボトルのキャップはプラスチックごみとして出すことになっているが、これからはリサイクル資源として回収している場所に持っていこうと思う。また、犬の散歩のときには道に落ちているごみを拾っているが、休みの日にはいつもと違う道を通って、もっと広い範囲でごみを拾ってみようと思う。さらに、リサイクルの大切さや環境保護について、身近な人たちにも伝えていきたい。

私は大人になったら、実際にオーストラリアの美しい海に潜り、きれいなサンゴ礁や魚たちを自分の目で見てみたい。その夢を叶えるためにも、今から環境に配慮し、未来の海を守る行動を続けていこうと思う。

佳作

「水をお借りします。」

高田中學校

一年

浅沼香菜子

かつて中村哲さんの偉業について書かれた本を読んだことがある。砂漠を緑地にすることができんだ、と非常に驚いたことを覚えている。ただ用水を砂漠に引いただけで草木が育つなんて。確かに、雨が何日も降らないと、庭の花がぐったりとしおれかけているのに、水をやったとたん、ものの数時間でしゃきつと頭を持ち上げ、元気よく咲いている姿は、生命にとっての水の大切さを教えてくれる。災害時の人の救出時間に七十二時間という目安があるのも、水なしでは、人が三日間しか生きられない、ということだと思う。

昔からなんとかして水を手に入れようとしていたことが歴史からわかる。社会の授業で、用水や疎水のことを学んだ。福島県の安積疎水、吉野川から引いた香川用水、愛知県の明治用水など。その中で、滋賀県の琵琶湖から京都にひいた琵琶湖疎水に興味があつ

たため、家族で運河の舟下り体験をした。琵琶湖を出発して川の流れに船の動力を加えて、かなりのスピードで用水を下つていったが、確か三十分位乗船していたと思う。いくつものトンネルを抜け、船と船がすれ違える程度の幅をもった運河を下っていると、ものすごい量の水を京都市内に引き込んでいることを感じる。水の流れが何もなかったところに、よくこんなに大きな用水を作ったものだ、と感心する。水は生命維持にかかせない物であるが、新潟や熊本の水俣病、富山のイタイイタイ病などの公害は、水を介して有害物質が人間にとりこまれた例だ。冒頭であげた中村哲さんは医師であり、アフガニスタンで患者の治療にあたる内に、目の前にある病を治しても次々とやってくる病人をみて、水に病気の原因があることをつきとめた。小さな川が原因だったかもしれないが、その川が多く

の人の生活を支えているために被害も広い範囲に及んでしまう。中村哲さんは、のみ水や畑を潤せるきれいな水を引く必要性を感じ、独学で砂漠の土地に用水を作った。この偉業により病人が減り、安全な作物が実るようになったのだ。水は生命にとって必要不可欠なものである一方、人の安易な行動により大きな被害を生じてしまう。

「水は地球の中で循環している。」このことを考えたのは、黄砂が毎年、春になると中国大陸から飛んでくることを知った時だ。風に乗って砂が飛んでくるなら、雲の流れに乗って水も移動しているに違いない。そこで水の循環について調べてみた。すると、地球上では、大気や水が絶え間なく循環していて、水の循環に関しては主に大気大循環と海洋大循環があることが分かった。日本上空の大気大循環は偏西風の影響でほぼ西（大陸）から東（海洋）に向かって移動する。したがって、大陸方面からきた雲が日本で雨となって我々の生活を支え、また日本で水蒸気となった水が雲となり、偏西風によって今度は太平洋をわたり、アメリカ大陸で雨となって大地を潤しているのかもしれない。一方、

海の水については、海洋大循環の一部である海流により地球の中で世界中を巡っている。こうして水は大気と海水を使って、地球の各地を巡っている。だから世界中が、一国も漏れることなく、安全な水を地球に返していく必要がある。我々は、循環する水を大切に使用わせて頂き、それをきれいな形で風に乗せて、または海に運ばれて次に行き着いた土地での恵みの一滴としなければいけない。地球をお借りしています。そして、我々を生かしてくれる水をお借りしています、という気持ちを大切にし、きれいな水が地球で循環するような努力をしなければいけないと思う。



佳作

美しい君ヶ野ダムを守るために

高^た田^か中^だ学^{ちゅう}校^{がっこう}

一年

鈴^す木^ず葵^き唯^{あおい}

小学生の頃、夏休みの自由研究で雲出川の上流から下流までをたどったことがある。その途中に、君ヶ野ダムを訪れた。青々としげった森の中にたたずむダム。「人工物」「コンクリート」。そのような、私の抱いていたダムに対する無機質な印象とは異なり、そのダムは周囲の自然とともに雄大な景色を作り出していた。太陽の光を受け、きらきらと輝く水面。私はそれらの景色を見て、感動さえ覚えた。ただ水を貯めるだけの人工的な施設だと思っていたダムが、美しい景色の一部になると知り、私の中のダムのイメージがガラッと変わった。

言うまでもなく、ダムは水を貯めるものだ。よくニュースや新聞などで見かける「ダムの底に沈んだ町」というフレーズ。ダムの建設にあたり、住民が立ち退きを強いられることもある。生まれ育った大切な町を

出ていく人々は、絶望に似た感情を抱くだろう。ましてや、その町はなくなってしまうのだ。いくら高いお金を払ってもらったとしても、その悲しみは消えるものではないと思う。

また、ダムの建設によって自然が破壊される恐れもある。実際、君ヶ野ダムも山の中にあり、森林に影響を与えていることは間違いない。地球温暖化が問題となっている現代に森林の破壊は看過できない。

それでも、川の上流にダムがあることで、大雨や台風の際、雨水を貯めて洪水を防いだり、反対に水不足の時には貯めておいた水を利用することができる。飲料水、風呂の水、トイレの水など、人間が生活する上で水が必要な場面はたくさんある。水がないと人は生きていけない。ダムのおかげで人々は水に対する安心感を常に得ることができる。ダムは日常の水を蓄える

だけでなく、人々の暮らしを豊かにしたり、安心を与えるという重要な役割も担っているのだ。

蛇口をひねったら当然のように出てくると思っている水。しかし、断水などで水を得られなくなると、途端に風呂やトイレなどは使えなくなり、飲み水もなくなってしまう。そうになると、生きることは困難になり、生活が一気に脅かされることになる。

一般的に、水は大切なものであるという認識は誰もが持っている。それに反対する人はおそらくいないだろう。しかし、それを守ろうと実際に行動に移している人はどれくらいいるのだろうか。皿洗いの時、食器についている油汚れなどをティッシュで拭き取ってから洗う。歯磨きの時はコップを使う。そのような水を大切にするための簡単な取り組みさえ実際に行っている人は少ないように思う。

私も、「少しくらいならいいか」と思い、シャワーや蛇口の水を出しっぱなしにしていることがある。みんながそのように考えているなら、その「少し」が積み重なって、環境に大きな影響を与えるかもしれない。こうした人々の意識を変えるには、ダムなどの美し

景色に触れるなど、水の大切さを身をもって体験することも重要だと私は考える。なぜなら、私たちが汚した水は、めぐりめぐってその美しい景色さえも壊してしまうかもしれないからだ。一人ひとりがダムの雄大な景色を見て感動し、その環境を守りたいと思って節水や汚れた水をできるだけ流さないといった実際の行動に移せば、格段に水を取り囲む環境は良くなるはずだ。一人ひとりの「少し」の行動は、積み重なれば大きな力になる。

私も、君ヶ野ダムの美しい環境をこれからも守っていくために、自分の行動を見直し、できることから取り組んでいきたいと思う。



佳作

二〇五〇年の海

高田 中 学 校

二 年

土井 柚 香

二〇五〇年の海では、魚よりプラスチック廃棄物の量が多くなるー。

先日、大阪万博を訪れた。どのパビリオンも大変興味深く、時間が経つのが今までで一番早く感じられた。特に印象に残ったのはブルーオーシャンドームだ。

ブルーオーシャンドームは、「海の蘇生」がテーマである。海洋資源の持続的活用や海洋生態系の保護について、様々な視点から来館者に訴えかけていた。

二〇五〇年、プラスチック廃棄物が魚の量を上回ると聞いて、あなたは思うだろうか。私は、強い衝撃を感じた。海洋プラスチック問題が、思っていた何倍も深刻だったからだ。現在の海には、一億五千万トンものプラスチックが漂っているという。この事実を一体どれほどの人が知っているのだろうか。

こんなにも海洋プラスチック問題は深刻であるというのに、現状を知らない人は大多数なのではないかと私は考えた。そこで、たくさんの人にこの事実を伝えたく思った。

まず、海洋ごみ問題の現状を掘り下げることにした。すると、SDGsのページにたどり着いた。十四番目に、「海の豊かさを守ろう」という目標がある。そこには、年間九百万から千四百万トンものプラスチックごみが海に流れ出ているとの記述があった。さらに、一分間に百万本ものプラスチックボトルが売られているとも書かれていた。そういえば、万博会場内のいたるところに無料の給水スポットがあった。なるほどあれは、プラスチックごみ削減のための取り組みであったのか。他にはどのような取り組みがなされているのだろうか。

調べてみると、レジ袋の配布、販売を禁止したり、飲食店で買った飲み物も客が持参したマイボトルに注いだりするなど取り組みまれていると分かった。たしかに、お土産を買ったときも、繰り返し使うことのできる紙袋の販売はあったけれど、レジ袋は無かった。また、ブルーオーシャンドームの建築にも、竹を集成材加工した骨組みやカーボンファイバー炭素繊維強化プラスチックの屋根、段ボールのパーツなど、海を守るために様々な工夫が凝らされていた。こうして、万博会場内にはあらゆる場所に海を守るための取り組みが行われていた。では、日常生活では、どのような取り組みを見つけられるのだろうか。

二〇二〇年、レジ袋が有料化されたことは記憶に新しい。それに伴い、多くの飲食店で紙ストローが使われるようになった。

しかし、紙ストローでは飲み物の風味が損なわれてしまうなど、問題点も多く出てきた。

このように、海洋ごみ問題には様々な背景があり、多くの問題と深く繋がっている。また、その現状を知らない人がたくさんいることも事実だ。そこで、海洋

プラスチック問題に対する私の「行動宣言」をここに書き留めることにした。

一つ目に、マイボトルの積極的な使用だ。正直私は、ペットボトルよりもマイボトルの方が何かと便利であるように思う。なぜなら、マイボトルは色や柄で即時に自分のものと分かるからだ。このことから、私はこれからマイボトルを積極的に使用していく。

二つ目に、この海洋ごみ問題について、より多くの人により分かりやすく伝えることだ。私は、万博でブルーオーシャンドームに入るまで海洋ごみ問題についてどこか他人事のように思っていたけれど、入った後は危機感を覚えるようになった。「二十五年後には魚の量をプラスチックが上回る」と具体的な期間を示すことで自分事として捉えやすくなるのではないか。このように、伝え方も工夫しながら家族や友人、先輩に説明することで、自分自身も責任感を持つようになると思う。

タイムリミットはあと二十五年――。

第47回「全日本中学生水の作文コンクール」について

「水の週間」（8月1日～7日）行事の一環として実施された、第47回「全日本中学生水の作文コンクール」の概要は次のとおりです。

1 応募要領

- (1) 課 題 「水について考える」（題名は自由）
- (2) 原稿枚数 400字詰原稿用紙4枚以内
- (3) 募集期間 令和7年1月10日～令和7年5月9日
- (4) 版 権 等
 - ・応募作品は自作未発表のものに限る。
 - ・応募作品の返却は行わない。
 - ・入選作品の著作権は主催者に帰属する。

2 地方審査

第47回「全日本中学生水の作文コンクール」審査基準に基づく審査により、優秀作文5編を決定しました。

審 査 員（4名）

三重県中学校国語教育研究会会員

三重県環境生活部環境共生局大気・水環境課職員

三重県企業庁企業総務課職員

三重県地域連携・交通部水資源・地域プロジェクト課職員

3 三重県の応募状況

応募学校数	応募総数	学 年 別		
		1年生	2年生	3年生
2校	376名	185編	179編	12編

4 中央審査

各都道府県から推薦された優秀作文は、国土交通省におかれる中央審査会で審査され、最優秀賞1編、優秀賞9編、入選30編、佳作（最優秀賞、優秀賞、入選を除く作文）が決定されました。

5 主催・共催

主催 水循環政策本部、国土交通省、三重県

共催 琵琶湖・淀川流域水の作文コンクール実行委員会

6 その他

優秀作文5編については、「琵琶湖・淀川流域水の作文コンクール実行委員会」（構成団体：三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県）でも審査され、流域賞1編が決定されました。

